

松江市立湖北中学校 第3学年2組 国語科学習指導案

日時 令和3年10月12日(火) 5校時
 場所 湖北中学校 コンピューター室
 授業者 周藤尚子

1. 単元名 多角的に分析して書こう ～説得力のある批評文を書こう～
 教材名 「多角的に分析して書こう」(光村図書3年)

2. 単元の目標

- 抽象と具体など情報と情報との関係について理解を深めることができる。 [知識及び技能] (2) ア
- 文章の種類を選択し、多様な読み手を説得できるように論理の展開などを考えて、文章の構成を工夫することができる。 [思考力、判断力、表現力等] B(1) イ
- ◎表現の仕方を考えたり資料を適切に引用したりするなど、自分の考えが分かりやすく伝わる文章になるように工夫することができる。 [思考力、判断力、表現力等] B(1) ウ
- 言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり思いや考えを伝え合おうとする。 「学びに向かう力、人間性等」

3. 単元で取り上げる言語活動

関心のある広告について、批評文を書く。(関連：[思考力、判断力、表現力等] B(2) ア)

4. 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①抽象と具体など情報と情報との関係について理解を深めている。((2)ア)	①「書くこと」において、文章の種類を選択し、多様な読み手を説得できるように論理の展開などを考えて、文章の構成を工夫している。(B(1)イ) ②「書くこと」において、表現の仕方を考えたり資料を適切に引用したりするなど、自分の考えがわかりやすく伝わる文章になるように工夫している。(B(1)ウ)	①粘り強く表現の仕方を考えたり資料を適切に引用したりして、学習の見通しをもって批評文を書こうとしている。

5. 単元設定について

(教材観)

本単元の重点指導事項は、「書くこと」の「ウ 表現の仕方を考えたり資料を適切に引用したりするなど、自分の考えが分かりやすく伝わる文章になるように工夫すること」である。3年生の、これまでの「書くこと」の学習では、「文章の種類を選んで書こう」において、文章の種類を選択し、情報を収集・整理して書くことを学習し、「俳句を作って楽しもう」では、構成の工夫について考えた。これらの力を生かしながら、本単元では、より表現の仕方を工夫したり、自分の考えの根拠としてふさわしい資料を選んで引用したりすることにより、読み手にわかりやすく説得力のある文章を書く力を身に付けさせたい。そのための言語活動として、広告についての批評文を書く活動を設定した。

「批評文」とは、対象とする事柄の特性や価値などについて評価して論じた文章のことである。説得力のある批評文を書くには、題材にあった観点を設定し、それを基に的確に分析をするプロセスが必要となる。題材を広告としたのは、身近な素材であること、それらを客観的に分析・批評する力を付けることで、消費者教育にもつ

ながら、自分の生活に生かしていくことができるからである。広告には、見た者の目を引くインパクトがあるもの、ユニークなものも多く、生徒たちも興味をもてる材料である。しかし、そのようなインパクトがあるからこそ、広告を評価する際、その印象にしばられることも少なくない。広告は、目的や役割、対象の設定が明確であり、観点に基づいて、分析する力をつけるのに適した題材である。

(生徒観)

省略

(指導観)

本単元では、多様な読み手を説得できるように、文章の構成や表現の仕方を考えながら、自分の考えをわかりやすく書く力をつけることをねらいとしている。このねらいを生徒と共有しながら学習を進めるために、生徒とともにルーブリック*を作成する授業を二時間目に設けた。批評文のモデルとして提示した文章からわかる工夫や教科書に載っている補足的な情報をもとにA評価（概ね満足できると判断できる姿）を設定し、自分のめざしたい発展的な記述に関する項目を含む文章をS評価（十分満足できると判断できる姿）とした。ルーブリックを考えることで、生徒は説得力のある批評文にするためには、「何を」「どのように」取り入れればよいかを明確に把握し、それを意識して批評文を書くことができる。また、自己評価や相互評価の際に、書き上げた文章のよさや改善すべき点に生徒自身が気づくこともできる。生徒はルーブリックを作成することも、ルーブリックを使って学習を進めることも初めての試みであるが、本単元でつきたい力を意識しながら主体的に学習を進められる方法として有効だと考える。また、自分の意見を支えるのにふさわしい資料を検討する際には、学校司書と連携し、関連する資料を提供できるように準備したい。

本時は、ルーブリックを用いて、各自の批評文の下書きを推敲する時間である。ルーブリックを手かがりとすることで、加筆、修正すべきポイントが明確になり、さらにグループ活動で読み手としての視点から評価を受けることで、よりよい批評文にしようとする主体的な学習へとつながると考える。

※ルーブリック

成功の度合いを示す数レベル程度の尺度と、それぞれのレベルに対応するパフォーマンスの特徴を示した記述語（評価規準）からなる評価基準表。（文部科学省『学習評価に関する資料』「多様な評価方法の例」より）

6. 研究との関わり

本校では、「湖北中学校の生徒につきたい力」を「へこたれない解決力」「つながる協働力」「たくましい表現力」の三つの力に整理し、教育活動全般に反映させている。各教科の授業においても、教科の目標だけでなく、「つきたい力」を明記しその育成に取り組んでいる。

本単元において、ルーブリックを生徒自身で考え設定することは、自ら目標をもち、レベルアップさせながら継続的に課題に取り組む「へこたれない解決力」の育成につながるものと考えられる。

7. 単元指導計画と評価計画 (全6時間 本時5/6)

次	時	学習の流れ	学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法等
一	1 2	○単元の見通しをもち、ルーブリックを考える。	①学習のねらいや進め方をつかみ、学習の見通しをもつ。 ②批評文について知る。 ③説得力のある批評文を書くためのルーブリックを考える。 ④批評する題材を選ぶ。	・実際の生活の中で、事柄について批評する場面を取り上げ、学ぶ意義をもてるようにする。 ・「書くこと」の既習事項を想起したり、モデルとなる批評文や教科書の記述を参考にしたりして評価規準を考えるようにする。	
二	3 4	○選んだ題材について、観点を決めて分析し、批評文の構成を考え、下書きをする。	①選んだ広告について、観点を決めて分析し、自分の考えをまとめる。 ②自分が捉えた広告の主題と評価について、根拠となる資料を検討する。 ③構成を考える。 ④ワークシートをもとに下書きをする。	・分析した内容について交流し、考えを深められるようにする。 ・主題と評価を支える根拠として、ふさわしい資料が見つけれられるよう、学校司書と連携して準備しておく。 ・ルーブリックを意識しながら書くように助言する。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>[知識・技能①] ワークシート ・根拠として用いた具体的な資料等が、自分の意見(主題と評価)を支えるのにふさわしいものになっているか確認する。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>[思考・判断・表現①] ワークシート ・読み手を説得できる分析・展開になっているか確認する。</p> </div>
三	5 本時	○ルーブリックと照らし合わせて、下書きを推敲する。	①批評文の下書きを読み合い、よりよい批評文にするために、ルーブリックと照らし合わせながら、意見を交流する。 ②他の人の意見を参考に推敲し、批評文を清書する。	・指摘する内容を付箋に書いて交流し、記録が残るようにする。 ・できていないところだけでなく、よく書けているところについても積極的に評価するよう助言する。 ・読み手の立場からの意見を踏まえ、下書きの表現を推敲させ、どのように修正したかわかるようにする。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>[思考・判断・表現②] ワークシート ・ルーブリックと照らし合わせたり、他の人の意見を参考にしたりしながら、表現の工夫や引用する資料について検討しようとしているか確認する。</p> </div>
	6	○批評文を清書し、単元の学習を振り返る。	①批評文の清書を仕上げ ②単元の振り返りをする。	・説得力ある批評文にするためにどのように試行錯誤したのかを振り返り、本単元で学んだことを今後の学習にどのように生かしたいかを考えられるようにする。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>[主体的に学習に取り組む態度①] 原稿・振り返り ・ルーブリックと照らし合わせたり、他の人の意見を参考にしたりしながら、表現の工夫や引用する資料について検討しようとしているか確認する。</p> </div>

8. 本時の学習

(1) 目標

○読み手に分かりやすく説得力のある批評文にするために、ルーブリックをもとに推敲することができる。

(2) 湖北中でつきたい力〔へこたれない解決力〕

ルーブリックやアドバイスを生かしながら、より説得力のある批評文にするために表現を工夫しようとする。

(3) 展開

学習活動	教師の支援	評価規準・評価方法
○これまでの学習内容をふりかえる。	<ul style="list-style-type: none"> ・学習の流れを確認し、学習の見通しがもてるようにする。 ・よりよい批評文を書くために推敲することを伝える。 	
○本時のめあてを確認する。	<ul style="list-style-type: none"> ・推敲の視点としてルーブリックを用いることを確認する。 	
よりよい批評文を書くために、ルーブリックをもとに推敲しよう。		
<p>○グループに分かれて批評文の下書きを読み合い、よりわかりやすい文章にするために意見を交流する。</p> <p>○アドバイスをもち、自分の文章を推敲し、批評文の清書に取り組む。</p> <p>○学習の振り返りをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・批評文を相互に読み、互いにアドバイスを付箋に書き出すようにする。 ・できていないところだけでなく、よく書けているところについても積極的に評価するよう伝える。 ・批評文の書き手である個人のルーブリックの内容が反映されているかを確認するよう伝える。 ・ルーブリックの項目を用いてアドバイスするように促す。 ・作業が進みにくい班には推敲のヒントになる箇所を教え、一緒に考える。 ・ルーブリックや他の人の意見からどの部分を推敲したかについて、ワークシートに書く。 	<p>[思考・判断・表現②] ワークシート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ルーブリックと照らし合わせたり、他の人の意見を参考にしたりしながら、表現の工夫や引用する資料について検討しようとしているか確認する。

(3) 評価

十分満足できると判断される状況	概ね満足できると判断される状況	支援を要する状況への手立て
「S」の評価基準を目指して、より丁寧に検討し表現を磨いている。	ルーブリックと照らし合わせたり、他の人の意見を参考にしたりして、表現を整えたり、引用する資料について再考し修正したりしている。	具体的な推敲点について教師が助言したり、実際にほかの生徒が付箋に書いている内容を紹介したりする。

(4) 授業研究の視点

- ・ルーブリックを用いることは、多様な読み手を説得できるように、伝えたい内容に応じて文章の構成や表現の仕方を考えながら、自分の考えをわかりやすく書くための手段として有効であったか。

*授業者の考えたルーブリック表

	S (十分満足できる姿) ※生徒によって項目はさまざまになる	A (概ね満足できる姿)
構成の工夫	<ul style="list-style-type: none"> ○書き出し, 終わりに自分の批評の主題が印象的な言葉として述べられている。 ○意見と根拠の関係が説得力のある論理展開になっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○序論・本論・結論を意識して書いている。 ○批評文として適した(例「考え・主張」から「一般論・現状」「分析」「引用」「まとめ」)の構成になっている。
表現の工夫	<ul style="list-style-type: none"> ○専門用語は使わないなど読み手を意識して表現を吟味している。 ○批評するときの言葉を文章中で三つ以上使っている。 ○主題を繰り返す際, 言い換える表現が使われている。 ○受け手の反応についての想定を含んでいる。 ○視点の転換を入れている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○考えを端的な言葉で表している。 ○批評するときの言葉を使っている。
内容	<ul style="list-style-type: none"> ○意見の根拠が効果的に述べられている。 ○広告の内容について具体的に取り上げている。 ○対象を客観的に分析している。 ○一般論を論展開に取り入れている。 ○考えを補強するのにより適切な資料を引用している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○観点を決めて対象を分析している。 ○対象の価値について自分の意見を述べている。 ○意見の根拠を明確にしている。 ○自分の意見の根拠となる資料を引用し, 出典を明記している。
文章の正確性	<ul style="list-style-type: none"> ○表記について, 誤りが全くない。 ○一文の長さが適切である。 ○抽象度の高い言葉を適切に使っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○漢字や仮名遣い, 送り仮名の誤りがない。 ○文末が常体で統一されている。 ○主語・述語が対応している。 ○一文が長すぎない。